大私教青年部ニュース

2018年７月
NO.37（今年度7）
発行：青年部事務局

近畿キックオフ！

とても蒸し暑かった７月１６日（月）、大阪から生徒５名、教員２名が京都の地へ降り立ちました。この日は京都の私学助成をすすめる会主催「近畿キックオフ」に参加するため、京都産業大学付属中学高等学校へ行ったのです。昨年度はこの近畿キックオフに大阪からは１校のみしか参加することができませんでした。しかし、今回は複数校で参加することができました。これは、大阪で生徒自主活動の波が大きくなっていることの表れでもあります。京都は生徒が自主的にさまざまな取り組みを行っていて、大阪の生徒も触発されたのか今年は実行委員として参加している生徒もいました。今回の参加者は生徒が６０名、保護者が４０名ほどで、京都の私学助成への関心の高さや生徒自主活動の取り組みの大きさをうかがい知ることができました。

始めに行われたのは「世界が１００人の村だったら」というアクティビティ。それぞれが１００人村の住人になりきって、世界の人口比率や識字率、富んでいる大陸やそうでない大陸について学びました。アジアでは日本が圧倒的に富んでいること、世界と比べて日本は少子高齢化がかなり進行していることなどを実際に体を動かすことで体感しました。

続いて、「未来の話 with 国会議員」ということで立憲民主党の福山哲郎議員と日本共産党の倉林明子議員を招いて「少子高齢化・平和・情報リテラシー・AI」に関する質問を京都の生徒が行いました。少子高齢化に対しては私学助成の話しも絡めながら「少子化」と「高齢化」はそれぞれ分けて考えなければならないと指摘もありました。平和に対しては生徒から「新・戦争の作り方」という絵本を用いながら質問がありました。その中では「野党の国会議員は法案が成立する前は一生懸命反対するのに、成立してからは反対しないのはなぜか」という質問もあり、実際に高校生が抱えている素朴な疑問が投げかけられていました。安保法制や特定機密保護法など政治に関する用語もたくさん生徒から出て、普段からニュースに対して積極的に触れていることが分かりました。情報リテラシーに関しては、国会議員の方から「一つの情報だけを見るのではなく、様々な情報を比較していくことが必要である」ということを生徒に伝えておられました。AI に対しても生徒ならではの斬新な視点での質問があり、今後の情報化社会でどう生き抜いていくべきかを考えさせられる討論でした。

国会議員との討論に続いて、「AI」「平和」「少子高齢化」などのテーマに分かれてグループディスカッションを行いました。保護者の方と生徒、教員が同じ立場で考えて日本の将来を考えるという機会は普段なかなかとれないので、生徒たちにも良い機会になったのではないでしょうか。

昼食の後は、私学助成をすすめる署名の促進のため生徒と教員から説明がありました。大阪でも署名に取り組んでいますが、生徒がその仕組みについて理解を深める良いきっかけになったと思います。その後、高校生全員で群舞を踊りました。群舞は愛知でも行っていますが、高校生全員で踊ることにより一体感が生まれ、一つのことに取り組むという意識が生まれるのではないでしょうか。

以下に今回参加した高校生の感想を載せます。

人口問題やお金や環境問題を別々の問題ではなく一緒の問題として見ると言うことを教わり、もっと自分もこういった問題に興味を持っていこうと思った。政府はもっと国民が暮らしやすい社会を作っていってもらいたいと思いました。

国会議員の方々のお話や今自分の身の回りに起こっている問題をたくさんの人と意見を交わして自分にはない考え方やこれからの自分たちにできることを考えグループディスカッションを通してたくさんの方々と交流ができてとても楽しかったです。

普段知っているようで、詳しくは知らないと言うことがわかる良いきかいだと思いました。

次回の生徒自主活動

次回は**８月２６日（日）１０：００～**　サンスクエア堺で生徒交流会を行います。生徒自主活動は、生徒自身が学校内外の問題に対して深く考えるきっかけになります。また、教師と生徒が同じ目線でものごとを考えるので、普段の教師生活では気づかない問題にも気づくきっかけになります。学校の生徒を連れてくるということはハードルが高いかもしれませんが、生徒たちは繋がることにより大きく成長します。是非サンスクエア堺に連れてきてください！！